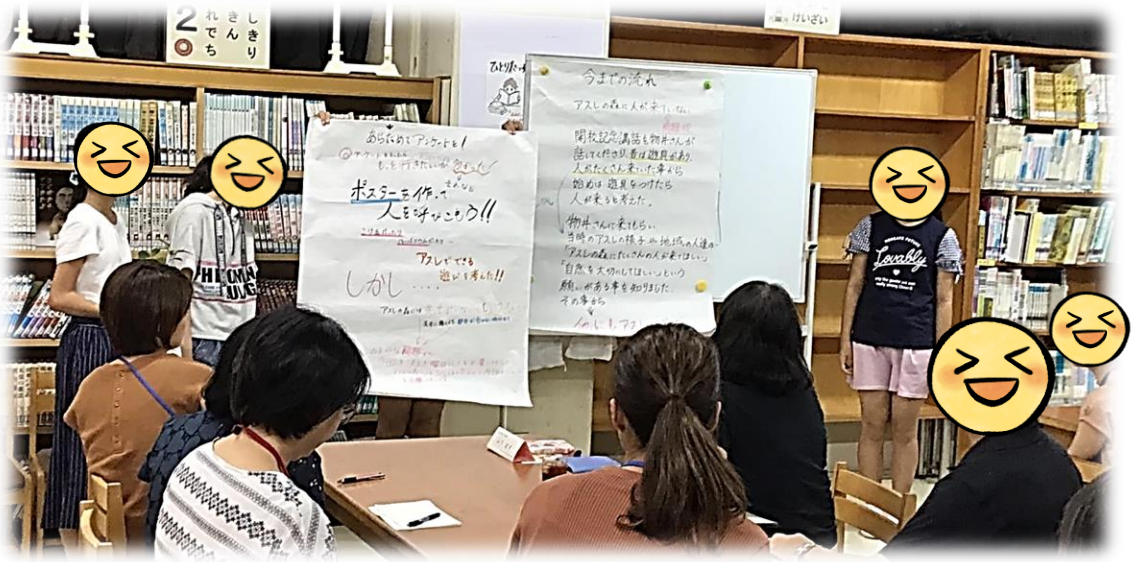
アスレの森から生まれた「いちごいちえ」

　アスレの森は横浜市立瀬ケ崎小学校の体育館裏にある、自然の中で生物観察や遊びができる場所です。1983 年 5 月にわんぱくランドという場所として完成後、2005 年アスレチック下地盤改修工事を経て、2008 年 12 月「アスレの森」としてオープンしました。（翌 2009 年に環境大臣表彰「自然ふれあい部門」を受賞）

平成２７年に地域の方と共に手入れ・整備をしています。

手入れ・整備後、子どもたちの自然観察や遊び場になっていました。

令和元年、当時の６年生たちはアスレの森をフィールドにせがさきタイム（総合的な学習の時間）を行っていました。当時、アスレに入る子どもたちが減ってきたことを課題として、全校児童に「どうすればアスレの森にもっとたくさんの子どもたちが行くか」というアンケートを取り、多かった回答のうち「リフレや昼休みにアスレに自由に行けるようにしたい」という意見をまとめ、その年度の拡大学校運営委員会に出席し、休み時間への人員の配置をお願いしたところ、「今後検討していく」という形で会は終了しました。



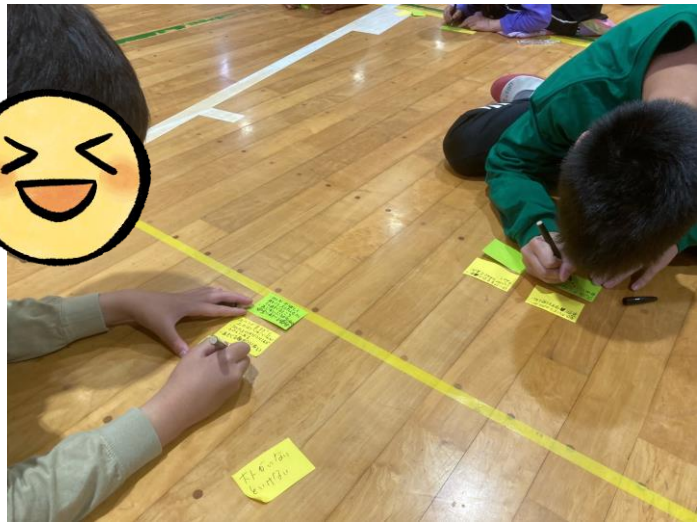
いよいよたくさんの児童が森に入れる！と喜んでいましたが、この年（令和元年）の９月、大型の台風１５号の影響で、倒木や、地滑りが起きてしまい、立ち入りが禁止されていました。

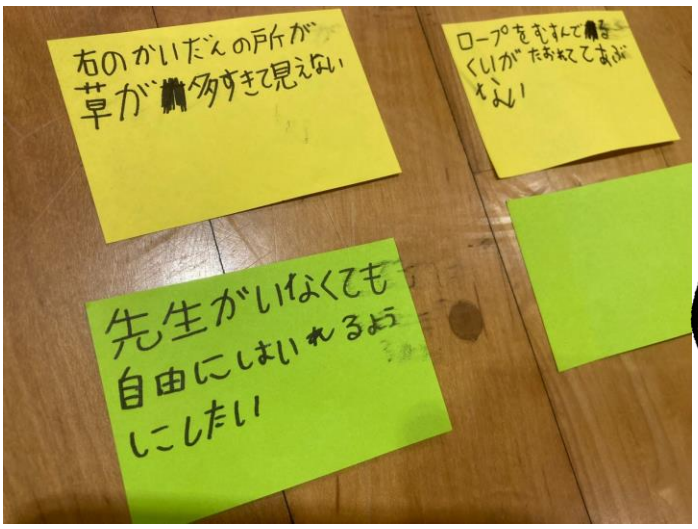
５月台風前

９月台風後

令和３年までに市や区の予算で、危険な倒木の除去、伐採を行い、児童がアスレに入るため最低限の安全は確保されましたが、土砂の流出により、階段が不安定であったり、これまでは入れたエリアに入れなくなっていたりします。

令和５年度の６年生は、５年生の頃からアスレの森をせがさきタイムの題材として、関東学院大学の中津准教授と共にアスレの森復興のために活動してきました。





～　幼保の子どもたちが楽しめる「おがくずひろば」　～

令和 5 年度、６年生になった子どもたちはアスレの森を「地域の人みんなが楽しめる場所」として復興しようと、森の入口に地域の幼稚園・保育園など小さな子ども達が遊びに来ることができる場所をつくろうと考えました。そこで、本校卒業生の保護者で、金沢区内でヒノキのおがくずを活用した酵素サロンを運営されている方から廃棄するおがくずを頂き、アスレの森前に「おがくずひろば」を完成させることができました。ヒノキは殺菌効果が強く、土に混ぜたり、カブトムシ等を育てたりするのには不向きですが、その殺菌作用を利用し、砂場のように遊んだり、相撲をとったりして遊べます。防草効果も期待できます。今後も定期的におがくずを頂く予定になっており、おがくず広場は持続可能なものになりました。

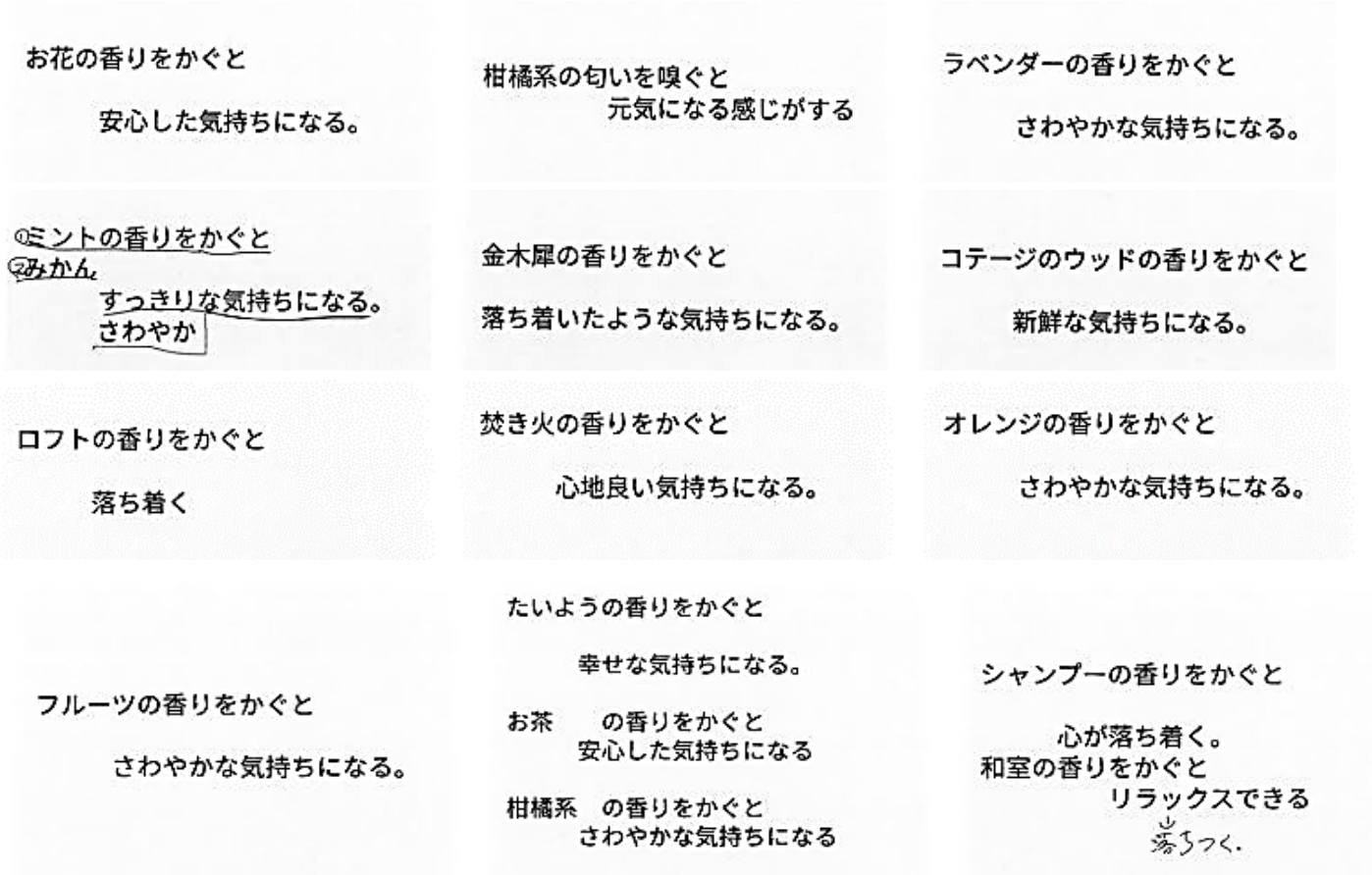
～　「香り」に着目した子どもたち　～

おがくず広場作りを通して、ヒノキの香りに触れてきた子どもたちは、「香り」そのものに興味がでてきました。ヒノキのおがくずから香りを抽出し、アスレの森にあるタブノキや、給食室から廃棄される野菜の皮を粉末にしたものを練り合わせて「アスレの森のお香」を作ってみました。「もっと香りについてくわしく知りたい」と考えた子どもたちは、㈱日本香堂のみなさんに学校に来ていただき、調香体験をさせていただきました。

～　自分たちも製品作りをしたい　～

体験授業が終わった後の振り返りシートには「私も商品になるようなお香作りをしてみたいです」という言葉が並びました。そして、日本香堂のみなさんは、この願いも叶えてくれることになったのです。

瀬ケ崎小学校と日本香堂の協働した商品作りが始まりました。コンセプトは「子どもが『好き』な香りのするお香」です。しかし、子どもにとっての「いい香り」とはいったい何なのでしょう。子どもたちに「好きな香りとその時の気持ち」を考えてもらいました。



これは、子どもたちにとっての「好きな香りと気持ち」の一部ですが、こうしたたくさんの「好きな香りと気持ち」を集め、日本香堂の方に製品の香りをまとめていただきました。いくつかの香りの中から、子どもたちが最終決定した香りは「苺」と「森」の香りでした。苺の甘い香りと、森の爽やかな香り、アスレの森から学んだ子どもたちだからこその選択でした。製品の名前である「いちごいちえ」は単に「苺」と「一期」がかかっているだけでなく、この製品づくりに関わってくれた人々、製品を買ってくださる人々を大切にしたいという子どもたちの想いがこめられています。